

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401483		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名378-2		
自己評価作成日	H21年 12月31日	評価結果市町村受理日	H22年 3月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階(本店)
訪問調査日	平成22年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院併設なので急変時や事故発生時は、早急な対応と処置がとれる。</li> <li>・季節毎の行事には職員のアイデアが十分に生かされている。</li> <li>・デイケアサービスやリハビリ室もあり近くでサービスを活用できる。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域で信頼されている病院併設のグループホームであり、入居者や家族にとっては特に医療の面で大きな安心感がある。病院の三階にあり日当たりも良く、職員は明るく親しみやすい。季節ごとの行事には行事食や職員手作りの衣装を用意したり楽しい時間を作ることに力を入れている。入居者は階下の病院内で理学療法士によるリハビリに参加しているが、ホームまで指導に来ていただくこともあり継続的な機能訓練ができています。法人としてはクリスマス会を開いて楽しんでいただいたり、デイケアサービス利用を通じて地域の方との交流に努めている。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員が目に見えるところに配置し常に共有しあえるように努めている。利用者様との生活においても実感している。	本年度は理念を実践するにあたって「笑顔を大切にし」とは入居者の「心と身体が健康であるように支援すること」と捉え支援に努めた結果、特に身体健康の面では体調を崩される方が少なかった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議においても、包括職員、民生委員、家族の代表者にホームの活動、利用者様の状態を報告し地域の方の賛同を得ている。又、暖かい時期には、周辺を散歩し店に立ち寄り地域との交流を図っている。	ホームが母体である病院の三階にあるということで事業所単体としてよりは地域から信頼される医療法人の一部として係わりを持っている。地域の中学校の福祉体験を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や面会に来られる方々には実践を通して日々、起きている認知症の症状や特徴、状態等は説明をし理解を求めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	基本的に2ヶ月に1回実施している。メンバーは民生委員、家族代表者、包括職員、他機関の職員、消防団員の委員様に集まっていたいただき活動や利用者様の状況を報告し評価していただいている。又、助言や指導もいただいている。	運営推進会議では入居者家族や地域包括支援センター職員、民生委員等が参加され具体的に率直な質問や意見をいただいている。これを無駄にすることなく活かせるよう心がけている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて包括職員にホームの実情やケアサービスを報告し助言や指導をしていただき協力関係を築くようにしている。	市役所との連携は必要な時のみとなっているが、地域包括支援センターの職員には適切な助言や指導を頂いており、良い関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、ベッドから転倒しないように柵をしている利用者様がいますが家族の同意と文書にて了承していただいている。玄関の施錠もしていない。	ベッドの柵については家族の同意のもとに使用しているが、転落事故を防ぐため床に布団を敷くようにしたり、入居者に負担のかからない廉価な床マットを探すなど出来るだけ柵をしないことを目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が虐待には十分心がけている。管理者は、虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記の法律に関しては、家族や関係機関より相談があった場合は、必要な書類を準備し説明できるように適宜、対応している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は、利用者様の状態を含めてその主旨の説明を行い理解と同意を得ている。又、契約書はコピーして撮って家族に渡し更なる理解を得られるように努力している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームには意見箱を設置し苦情を受け付けているが、そのような苦情は殆どない。もし、そういった場合に苦情・意見要望があった場合は、すぐに職員へ報告し、運営に反映している。	家族には面会時に職員から声を掛けて、意見を頂くように心がけている。最近では福祉用品の自己負担金や職員の言葉づかいについて御意見を頂きグループワーク等で話し合った。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、1回グループワークを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	月一回または随時におこなわれているグループワークでは行事の企画やその他の意見が多く聞かれ、普段あまり意見を言わない職員もこの時には活発に発言している。支援に繋がるよう心がけている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、医療法人祐和会の理事長でもある。職員の実績や勤務状況を把握した上での評価は、個々が認識している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1回/M、病院の病棟主催で研修が行われている。勤務状況に応じて交代で参加するようにしている。外部の研修には、個人に任せている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では、近くのグループホームと情報の共有を行っている。お互いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族も含めて、利用者様本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の説明で困っている事、不安な事、要望等は、率先して聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極めながら生活できるように対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な空間を大事にし、その暮らしを共にする者同士、良好な関係を築けるように努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員一人一人が、家族の方とよく会話をし、交流を図るように努めている。利用者様のケアはもちろんのこと、病院受診等にも協力していただき、利用者様本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方には、友人や知り合いが多く、常時、利用者様との関係が途切れないような声掛け、挨拶に心がけている。	冠婚葬祭、同窓会など希望があれば支援している。階下の母体病院において入居者が受診の際に友人や知り合いと会ったり、病院に来られた方がホームに来られたりということもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋は個室であるが、それ以外の空間は、利用者様が孤立しないようにリビングで体操・レクリエーション・ゲーム等を行い、関わりを持つように場作りをしている。毎日の家事手伝いもお互い協力して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でホームを退所される場合は、入院されてもこれまでの関係を大切にしながら定期的に観察に行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意向に沿って生活できるように努めている。	入居者との会話だけでなく動作などからも読み取るように心がけている。アセスメント等で得られる情報も大切にし入居者の個々の身体状況、精神状況に合わせた声かけをおこなっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の生活に合わせた暮らしの把握に努め、実行している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活パターンを把握し、自立支援・残存機能といったことを重視し、その人らしい生活が送れるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点や改善点が出た場合は、適宜、スタッフ間でケアカンファレンスを実施している。その意見やアイデアを活用し、ケアや介護計画に生かしている。	入居者一人に職員二人が担当となりモニタリングを行っている。これを基にケアカンファレンスでサービス内容を見直して良い支援につなげるようにしている。アセスメントの更新も行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌はもちろんのことだが、ケアプランに沿った介護支援経過を担当者を決めて記入している。介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の利用者様の状態を考慮し、ケアプランの見直しの際には、そのニーズを取り入れるようにしている。既存のサービスに捉われない柔軟な支援や記録に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係協力機関に協働を求めながら、その方に応じた支援ができるように努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院との併設ということもあり、利用者様に異変が生じた場合、すぐに外来受診できるようにしている。又、入院が必要な場合は、病棟もしくは、他病院に転院できるように支援している。	ほとんどの入居者が母体病院をかかりつけ医としている。他の病院で受診されている入居者は家族支援で通院されているが距離、頻度によっては職員が支援することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/W、医療連携看護師による、訪問を受けている。その時に、利用者様の状況を報告し、適切な指導や助言をいただき、受診や介護に生かしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、安心して治療できるように病院関係者との情報交換に努めている。早急に急変した時は、入院の手配を迅速に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、Dr. の指示もあり、病院の病棟もしくは、他病院へ入院となる。これは、入所前に家族にも報告し、理解していただいている。出来る限りの事はホームで対応している。	入居者、家族が母体病院に入院し医療を受けることを希望され、入居者が環境の変化にスムーズに対応できるよう支援しているが、今後の支援の準備として心肺蘇生の訓練などを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、職員が適切な行動・報告・処置を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、安全を重視している。その時に消防署より、色々な場面において指導と助言をいただいている。	法人として年二回の消防訓練を行い、防火管理者も任命されており、非常時には病院職員の協力を得ることができる。しかし、事業所としての独自の取り組みはまだ充分には行っていない。	出火場所、発生時間帯と職員配置など様々な想定に、各ユニットの入居者の状況も考慮した上でホーム独自の自主訓練、シュミレーションによる確認などの取り組みがなされることに期待したい。反復による周知徹底を確実性と安心に繋げていかれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重しながら声掛けをしている。職員1人1人が心がけて仕事をするようにしている。	職員は声かけの口調に注意し、居室へ伺う際にはノックをする、汚染の際も慎重に対応するなど心がけている。職員と入居者の関係は特に問題ないと考えているが家族から口調についての意見を頂くことがあった。	入居者本人へはもちろん、家族や外来者の心証に配慮した言葉かけによる支援とするため、全職員により会議や内部研修の機会における業務の振り返りと、統一した見解を再確認されることに期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で物事に対しての自己決定を利用者様には働きかけている。自己決定できる方には、していただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況、精神状況に応じて、利用者様1人1人のペースに合わせた支援、ケアに努めている。言動や行動にも着目している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの判断が出来ない方には、その人らしさができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	円卓テーブルに食事を準備し、それを皆で囲んで食事をしている。食器拭きは、適宜出来る方にはしていただいている。	昼食時は全員で食事を摂るが、職員は介助担当者以外は別のテーブルで休憩を兼ねて食事を摂りながら見守りを行っている。食事風景はユニット毎に入居者の介護度により会話の様子や雰囲気に違いはあるが、季節、行事食や入居者の嗜好も献立に反映した食の楽しみが提供されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養指導、改善のある利用者様には、状態に応じた食事形態を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔状態の清潔に努めている。残存機能と自立支援を考慮した口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に昼間は、共同トイレもしくはポータブルトイレでの排泄を促し、介助している。夜間は、転倒予防や状態を考慮し、数名オムツを着用している。	日中は排泄チェック表などを利用し、適切な誘導を心がけてトイレでの排泄を支援している。夜間はトイレ等への移動の際に転倒されやすい方については、安全を考慮してオムツを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者ごとに、下剤の使用回数や適量服薬時間も異なり、適宜対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴には、PMに行っている。利用者様の身体状況に応じて入浴している。入浴前は、必ずバイタルチェックを行い、発熱や低血圧だった場合は入浴は中止している。基本的に2回/W以上入浴をするようにしている。	入浴は入居者の身体状況に配慮して週2回としているが希望があれば柔軟に支援している。柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいただくこともある。男性職員が数名いることで、身体介助の点では安心して入浴していただくことができている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に応じて眠前薬を服用している方も数名いらっしゃるが、比較的殆どの利用者様が普通に夜間入眠できている。又、昼食後の休息として、約90分間の昼寝をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬を把握するように努めている。症状に変化が表れた場合には、Dr.・Nsに相談・確認し、安全に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物に行きたい方は、近くの店まで出かけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に1回/M、外出するようにしている。悪天候や気温が下がった場合等は中止し、別の日に変更している。冬は風邪も流行る時期なので、比較的室内の活動を重視している。時々、家族にも外出支援をしていただいている。歩ける方は、近くの店まで出かけている。	外出に関しては改善項目に掲げて、機会を少しでも増やしていくように、まず定期的な(毎月1回)外出に取り組んだ。入居者の身体状況を考慮し、近辺で季節感が味わえるようにしたが、インフルエンザの影響で計画通りにならなかった月もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	計算力、管理能力のある方には、適度な金額を持参して生活していただいている。その他の利用者様には家族に預かってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	残存機能、自立支援を生かした支援をしている。判断能力のある方は、電話・手紙のやりとりをしており、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは、生活感や季節感を取り入れて、心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者全員が座れる丸テーブルには普段遣いの花が飾られ、やさしい感じを醸し出している。またリビングの一角はカーペットとソファでお茶の間のような空間も造られ家庭的な寛ぎの場としている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同志の、居場所や位置には配慮し、気分良く過ごせるようにしている。独りで過ごしたい方は、あまりいない。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた物や好みの物の持ち込みは許可している。又、普段の生活においても、私物を置いてもらうことで、居心地良く過ごせるようにしている。	病棟であった部分を利用した居室には、個々の状況により馴染みの家具の大きさなどの相違はあるが、好みのレイアウトでその人らしさと居心地のよさが感じられるよう支援がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人一人のADL・自立支援・残存機能を生かした生活が送れるように支援している。「できること」や「わかること」は、状態を見極め、できる方には、していただいている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401483		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名378-2		
自己評価作成日	H21年 12月31日	評価結果市町村受理日	H22年3月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階(本店)		
訪問調査日	平成22年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員が目につくところに掲示し、常に共有し合えるように努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の見学に出かけたり、近隣の店に買い物に行ったりしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパーに実習生や福祉体験の学生などを受け入れ認知症について理解してもらえるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。他機関の職員に集まって頂き、日々の活動報告・利用者様の状況を報告し、評価してもらっている。又、助言・指導も頂いている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて包括職員に、ホームの実績やケアサービスの報告をし、助言や指導をしてもらい、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間ベッドから転落しないように柵をしている方がいるが、家族の同意を文書にて了承して頂いている。玄関の施錠も行っていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう、注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が十分に理解しているわけではないので、必要な時に十分な支援ができていないといえない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入口に意見箱を設置している。利用者様・家族からの意見・要望があった際には、すぐに職員に報告し、運営に反映している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月、グループワークを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況などを把握した上で評価してもらっていると思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1回/月併設の病棟主催で研修が行われている。できるだけ参加するようにしている。外部の研修については個人に任せている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと、情報の共有を行っている。お互いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族を含めて、利用者様本人の安心を確保する為、関係作りに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>契約時などの説明の時に、困っている事、不安な事、要望などは率先して聞くようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が必要としている支援を見極め、提供し、安心した生活ができるように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様・職員が同じ空間で過ごし、穏やかな時間を過ごせるよう心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員一人一人が、家族の方とよく会話をし、交流を図るように努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会に来られる方は、知人や友人が多く、常時、利用者様との関係が途切れないよう心がけている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>部屋は個室になっているが、その他は共有スペースとなっているので、他の利用者様と話やすい環境にある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された場合は、入院後もこれまでの関係性を大切にしながら定期的に情報交換を行っている。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望、意向を第一に考え、支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族から聞きとるようにしている。入所後も普段の会話の中で話を聞くように心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを把握し、自立支援・残存機能維持といったことを重視し、その人らしい生活が送れるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点や改善点が出た場合は、スタッフ間でケアカンファレンスを実施している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日誌を記入している。ケアプランに沿った介護支援経過を記入している。介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン見直しの際には、その時のニーズに合わせて作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係協力機関に協働を求めながら、その方に応じた支援ができるように努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりに主治医があり、適切な医療をうけられている。事業所外での主治医の場合は、家族付き添いで受診となっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/W、医療連携看護師による、バイタルチェック等を受けている。入居者の状況を報告し、指導・助言を頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院併設の為、重度化した場合には、Dr. 指示にて、病棟入院もしくは他の医療機関への入院となる。入所の際、家族にも説明している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、職員が、適切な処置等できるよう努力している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成して、年2～3回、火災避難訓練を行っている。消防署の協力を経て、避難訓練・避難経路の確認・消火器使い方等、訓練を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない対応を心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声かけを行い、十分に話を聞き、自己決定を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、本人の希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理容師さんに訪問して頂き、散髪を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者様が同じテーブルを囲み、食事を摂っている。利用者に盛り付けなどを頼んでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量など毎回チェックしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、利用者様に応じ介助を行っている。就寝前は義歯を洗浄液に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導することで、トイレで排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取したり、乳製品を取り入れる等している。適度に身体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の、その日の希望を確認してから、入浴してもらっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。昼食後、1時間程度の午睡を促している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬歴表をファイルに整理し、全職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更等があった場合は、細かく記録するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願いできる様な仕事は頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気等に応じて、近隣に買い物に出る等している。家族等の協力が必要な時は、家族へ連絡し、協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方は、小額ではあるが持っている。ほとんどの利用者様は管理していない。事務所で預かっていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけるようにしている。手紙も要望があれば、ハガキ等も準備している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れた空間作りに勤めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチを置き、プランターに花を植え、利用者様がいつでも楽しめる環境作りを心がけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など、使い慣れた物を部屋に持ち込んでもらい、居心地のよい空間作りに努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前には名札を付けたり、目印を付けるなど工夫している。		